

基本を再度、振り返る・・・



始めて母乳育児を体験するとき、ママと赤ちゃんの双方には何ら問題なく順調に経過するペアもあれば、双方に、またはどちらかに難しさがあって“うまくいっていない”と思われるケースも起こり得ます。

ほぼ順調な経過で退院になったケースでも、退院後1週間健診時に赤ちゃんの体重増加がうまくいっていないという場合もあります。

母乳育児のあれこれ基本をもう一度、復習しながら楽しい育児経験ができるといいですね。



色々な面で母乳育児は個人差があるのが、普通なので一律に“○時間ごとに・・・一つの乳房から▲分飲ませましょう”と学習できることではありません。

各ペアはそれぞれの赤ちゃんと母親の個性と状態によって幾分授乳方法や回数、授乳時間に差があってもよく、どの赤ちゃんも、普通に成長していけばよいのです。

個人差は授乳方法にも影響します。

Dr. Hartmannの1999年の研究によると母親の乳房内の貯蔵能力が各個人の授乳のやり方に影響にすると言います。貯蔵能力とは授乳と授乳の間に乳房内に母乳を貯蔵できる能力のことですが、それは乳房のサイズ、大きさに関係しているということです。これは母乳の製造能力のことではありません。どの赤ちゃんも **うまく飲み取ることができれば**必要量以上に作る事が出来るといわれます。

乳房サイズが小さめの方は、大きい乳房の人よりも短い間隔で回数多く授乳することで赤ちゃんは、順調に成長しますが、一方、乳房サイズが大きい人は授乳回数が少なくすみ、夜間眠る時間も長い傾向があります。

一つの基準は、**赤ちゃんは1日を通してきげんよく、満足して過ごしている** こと
授乳回数はすくなくとも8回～10回前後、便と尿の排泄が適当にあることです。



生後
0-1日



生後
2-3日



生後
3-4日

- 母乳育児の準備として “母乳育児準備クラス” など産院や、地区の保健センター開催のクラスで学習する。 *** 写真 1**
- 乳頭の手入れは必要ありません。
- 出産直後には母子の状態がよければ、できるだけ早く最初の授乳ができるように支援してもらいましょう。 *** 写真 2 分娩台で**
 - ー赤ちゃんの吸てつ(乳頭を正しく吸う事)で子宮の収縮が促され、出血が少なくなる。
 - ー出産後は赤ちゃんの吸てつ反射は強く、上手に吸うことを覚えやすい。
 - ー新生児はただちに初乳から免疫成分を受け取る。
 - ー赤ちゃんの腸の運動が促進され胎便の排出が早くなり、黄疸になりにくい。
 - ー早期から出来るだけ回数多く、長い時間授乳をすることで、乳房の緊満を予防する。
 - ー母乳分泌は早く十分になり赤ちゃんの体重増加が順調になる。 *** 写真 3**

母親の乳房、乳頭と赤ちゃんの条件でゆっくり進歩する場合があります。心配と思われる時には、専門家のアドバイスを聴くのもいいかもしれません。



参考文献 : Breastfeeding and Human Lactation
The Breastfeeding Answer Book LLL



写真 1
クラス



写真 2

お産後 2 時間位は良く目覚めている。

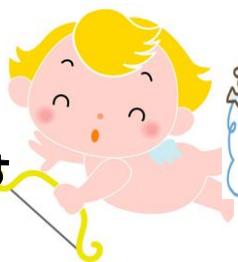


写真 3

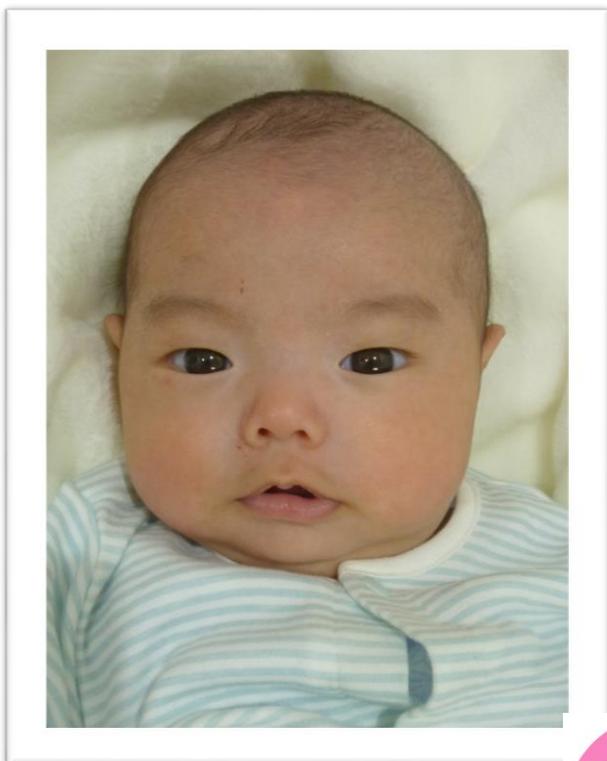
パパにも授乳を見守ってもらいましょう。度々授乳します。

無断転載禁止

かわいいお友達です



赤ちゃんアルバム



生後4日目 すやすや・・・



生後2週間とは思えない・・・
ひろたかくん



待望の女の子でした！！

無断転載禁